

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は平成28年6月29日開催の第98期定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、平成28年度より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。従いまして当連結会計年度は経過期間となり、当第2四半期連結累計期間については、当社並びに3月決算の連結子会社は6ヶ月（平成28年4月1日～平成28年9月30日）、12月決算の連結子会社は9ヶ月（平成28年1月1日～平成28年9月30日）を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国の経済は、政府による景気対策の継続などにより企業収益や雇用の改善など回復基調が見られるものの、物価上昇などの懸念から個人消費については厳しい状況が続いています。

そうした状況のなか、当社グループは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、お客様のニーズを満たす新製品の発売や、既存製品の育成、今後の成長事業への投資に努めてまいりました。

その結果、売上高は74,366百万円、営業利益は11,861百万円、経常利益は11,646百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,109百万円となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりです。

国内家庭用品製造販売事業

当事業では、春に15品目、秋に16品目の合計31品目の新製品を発売いたしました。なかでも外用消炎鎮痛剤「アンメルツNEO（ネオ）」や肥満症改善薬「ビスラットゴールドEX（イーエックス）」、背中・デコルテなどのブツブツ治療薬「セナキュア」、上質な香りのスタイリッシュな芳香消臭剤「お部屋の消臭元パルファム」、乳液タイプの乾燥肌治療薬「Saiki（さいき）乳液」、更年期の肌のスキンケア「命の母 スキンケア」などが売上に貢献しました。

既存品の薬粧品では洗眼薬「アイボン」や女性保健薬「命の母A」、傷あと改善薬「アットノン」、しつこい咳・気管支炎を改善する漢方薬「ダスモック」、歯槽膿漏予防ハミガキ「生葉」、歯間清掃具「やわらか歯間ブラシ」「糸ようじ」が、日用品ではインテリアフレグランス「Sawaday（サワデー） 香るStick（スティック）」や水洗トイレ用芳香洗剤「ブルーレット」が、スキンケアでは薬用ローション「オードムーゲ」などが好調に推移しました。

その結果、売上高は60,336百万円、セグメント利益（経常利益）は11,041百万円となりました。営業利益は11,204百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は当第2四半期連結累計期間では2,983百万円となっております。

(外部顧客への売上高の内訳)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
薬粧品	24,031	27,306
日用品	25,106	26,521
スキンケア	2,310	2,754
カイロ	646	771
合計	52,095	57,353

海外家庭用品製造販売事業

当事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロや額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」などを販売しており、広告や販売促進など積極的に投資することで、売上拡大に努めました。

その結果、売上高は11,900百万円、セグメント利益（経常利益）は310百万円となりました。営業利益は519百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は当第2四半期連結累計期間では659百万円となっております。

(外部顧客への売上高の内訳)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)
米国	2,195	3,888
中国	1,313	3,420
東南アジア	1,520	2,809
その他	1,031	1,122
合計	6,061	11,240

通信販売事業

当事業では、栄養補助食品、スキンケア製品等の通信販売を行っており、広告やダイレクトメールを中心とした販売促進による、新規顧客の開拓と既存顧客への購入促進に努めました。

その結果、売上高は4,600百万円、セグメント損失（経常損失）は176百万円となりました。営業損失は178百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおりません。

その他事業

当事業には、医療関連事業、運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作等を含んでおり、各社は独立採算で経営し、資材やサービス提供についてその納入価格の見直しを適宜行いました。

その結果、売上高は3,559百万円、セグメント利益（経常利益）は602百万円となりました。営業利益は247百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は当第2四半期連結累計期間では2,387百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ5,337百万円増加し、194,335百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少(4,062百万円)、受取手形及び売掛金の増加(6,167百万円)、商品及び製品の増加(2,279百万円)、のれんの増加(1,611百万円)等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ5,384百万円増加し、52,358百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加(1,223百万円)、電子記録債務の増加(1,511百万円)、未払金の増加(1,264百万円)、未払法人税等の増加(1,977百万円)、繰延税金負債の減少(923百万円)、事業整理損失引当金の増加(596百万円)等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ46百万円減少し、141,976百万円となり、自己資本比率は73.0%となりました。主な要因は、利益剰余金の増加(6,200百万円)、その他有価証券評価差額金の減少(493百万円)、為替換算調整勘定の減少(3,515百万円)等によるものです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは6,827百万円(前年同四半期は3,098百万円)となりました。主な増加は、税金等調整前四半期純利益10,708百万円、減価償却費1,346百万円、仕入債務の増加額3,068百万円、未払金の増加額1,875百万円、事業整理損失引当金の増加額596百万円であり、主な減少は、売上債権の増加額6,836百万円、たな卸資産の増加額2,957百万円、法人税等の支払額1,866百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは△2,976百万円(前年同四半期は△4,098百万円)となりました。主な内訳は、定期預金の預入による支出43,472百万円、定期預金の払戻による収入45,400百万円、有形固定資産の取得による支出1,965百万円、無形固定資産の取得による支出441百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出2,477百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは△4,157百万円(前年同四半期は△401百万円)となりました。主な内訳は、配当金の支払額1,927百万円、自己株式の取得による支出2,261百万円です。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末より2,110百万円減少し、23,318百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年12月期の連結業績予想につきましては、平成28年5月9日付け公表の「平成28年3月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。